

# 第一章

## 知られている事実

### 1.1 手稿の発見

何よりも大切なことは初めに「所定の事実」、つまりすべての研究者に与えられている明白な事実と、最近のわずかな時間に蓄積されてきた多くの推量とをきちんと区別することだと思われる。H. P. Kraus（彼は古書を扱うディーラーであり、何年間かこの手稿の所有者であった。）のカタログには優れた短い概略が記載されている。（図 1 を見よ。）簡単に説明すると、手稿は小さな四つ折り本であり、ページサイズは変化するものの平均 9 × 4 インチであり、いくつかはその倍の大きさである。ほとんどのページにはかなりの種類のカラーの絵が描かれていて、それらの意味は推測しやすい。加えて膨大な文章が未知の文字で書かれている。（この論文中を通して私はそれを「ヴォイニッチの文字（Voynich script）」と呼ぶ。ほとんどは植物、占星、宇宙的なもの、そして薬草表であり、わずかではあるが人間が奇妙な理解できない物品に囲まれたものもある。文章と絵についての詳細は第三、四章で述べる。

この手稿には表紙がついていない。第 1 ページはただ 4 段落の文章からなり、絵は描かれてはいない。しかし最初の記号は赤インクで大きく装飾され目立つ。最後のページには上の方に数行、他の大部分のヴォイニッチの文字とは異なるものが、またはそれが混ざったものが書かれ、動物、人、その他特定し難いものがその左に少し描かれている。手稿の本体となるいくつかのページにもメモらしきものがあり、それらは判読しがたいが、その文字と筆記は明らかに本文中のものとは異なっている。これら文章の異常な断片は全て後にさらに詳しく扱う。

私たちはもう一つ具体的に活用できるデータを持っている。それは Wilfrid Voynich により手稿の間から発見された手紙であり、図 2 で示す。図 3 は Voynich が用意したラテン語からの翻訳であり、彼により出版された。（1921, p.27）この手紙はプラハにいた Joannus Marcus Marci がこの手稿をローマにいる Athanasius Kircher, S. J. に贈ったときに書かれたものである。この手紙はこの後に続く情報を我々に与える。（これらは Voynich により研究され、その興味ある詳細は上の場所に記述されている。）

この手稿は 1665 年（もしくは 1666 年）に皇帝ルドルフ II 世（1552-1612）に仕えていた医師 Joannus Marcus Marci（1595-1667）の手にあった。

それ以前には一人もしくはそれ以上の不特定の所有の下にあった。おそらくルドルフ II 世朝に関係している人物であろう。

それはいつかは特定されていないが、誰かがルドルフに 600 ダカットもの高価で売却した。

別の情報が幸運な偶然により手稿ページ中から発見された。その出来事とは手稿の写真複製を作っているときに偶然第 1 ページに部分的にかすれた署名が見つかったことだ。赤外光下で調べてみたところ、この署名は「Jacobj à Tepenece」であることが分かり、Voynich

により彼は Jacobus Horcicky de Tepenez (d. 1622) と特定された。この人物はルドルフの植物園と錬金術研究所の責任者であった。彼が貴族の称号「de Tepenez」を得たのが 1608 年であることから、次のような事実が分かる。この手稿は 1608 年から 1622 年までの間のある時期にもう一人のルドルフ朝の人物、Jacobus Horcicky de Tepenez が所有していた。

最後に具体的な証拠として Voynich が 1912 年にこの手稿を発見した場所に関するものがある。この情報は Voynich がそこに再び戻りさらに別のマニュスクリプトを購入することを考えてしばらくの間秘密にされていた。最終的にはそこがイタリアのローマから遠くはない、モンドラゴネ寺院であることが明らかにされた。次のものは John Tiltman が集めたモンドラゴネに関する情報を要約したものである。

"...A villa in Frascati near Rome, built by Cardinal Altemps about 1570. In 1582 Pope Gregory XIII issued from Mondragone the bull reforming the calendar. The villa apparently continued in the Altemps family, as in 1620 a later member bequeathed the Mondragone library to the Vatican Library. In 1865 the villa became a Jesuit College which was finally closed in 1953." [Tiltman 1968, p. 2]

これが我々が謎の暗号について確かに知ることの全てである。注意深い研究者たちが手稿から、そして付属していた手紙が見つかったときに分かったことである。(私の知る限りインク、羊皮紙の科学的分析は行われてはいないし、特殊な光を用いて隠された文字を探す試みも行われたことはない。) このわずかな事実を土台にして体系を立て、推論を創造的調査まで具体化することは、根気強い研究者たち、初めは Wilfrid Voynich、そしてそれに続く研究者によって行われてきた。この論文の後のセクションでは未来の研究者にきっと役立つであろう十分詳細なこれら推量を扱う。

## 1.2 手稿の歴史

上に記述してきた資料から確かな基準を集めることができ、そしてそれらを以下に要約する。

手稿はある人の手にあり、1608 年以前にルドルフ朝に売却された。

1608 年から彼 [Rudolph] の死去した 1622 年の間のある時期、Jacobus de Tepenez が所有していた。

特定されていない人物によってその後所有され、彼は 1665 年、または 1666 年以前に Joannus Marcus Marci に遺贈した。

それはプラハにいた Marci によって 1665 年または 1666 年にローマにいた彼の恩師 Athanasius Kircher へ贈られた。

その後 Wilfrid Voynich がイタリアの Frascati にあるモンドラゴネ寺院で発見するまで記録は存在しない。

1930 年に Voynich が死去した後は、遺産として彼の未亡人 (有名な小説『The Godfly』の著者であり、ソビエトで特に良く読まれている。) に手稿は残された。Mrs. Voynich は

1960年に死去した。Miss A. M. NillはMrs. Voynichの長年に渡る親しい友人であり、手稿の共同所有者であった。

ニューヨークで古文書を扱うHans P. Krausは1961年7月12日これを\$24,500で購入した。

Krausはこの手稿の値段を初め\$100,000、後には\$160,000と見積もり、この値段で購入者を繰り返し探した。最終的には1960年、彼はこれをYale大学Beinecke Rare Book Libraryに寄贈し、今もそこにある。カタログナンバーはManuscript 408であり、資料により異なるが\$125,000から\$500,000の価値があると見積もられている。(近代に入ってからの手稿の歴史はTiltman 1968年からと、Miss Nillが彼女自身のため、Mr.そしてMrs. Voynichのために書いた非公開ノートから得たものである。)